

2024年度 後援会活動報告

(2025/6/22総会)

はじめに

2024年度は、コロナ等の感染症も落ち着き、ようやく本来の活動ができる環境でのスタートとなりました。

集合形式でのイベント実施や参加として、いこいの村まつり、耳の日記念集会（亀岡会場）を計画しブースの出展を行いました。また旧優生保護法による被害者とともに歩む京都の会主催の映画『沈黙の50年』上映会への参加も計画しました。

会員の状況は、減少に歯止めがかからない状況が続いており、今後もより積極的な呼びかけ、会員入会への丁寧なフォローが必要です。

1 会員の加入～拡大・納入～状況

2024年度は、プロジェクトチーム、幹事会、法人内後援会拡大委員とともに、会員拡大の取り組みを進めました。

2024年度の会員数は892名（新規84名・継続808名）、会員減少が続く結果となりました。

事務局として、数年更新がなされていない会員あてに更新依頼の手紙を丁寧に送付するなどを続けましたが、残念ながら結果が伴いませんでした。

また、会員へのお知らせとして、今年度より「法人後援会だより」を作成しました。これは会費の活用用途等について記載し、会員にお知らせするものです。今後も継続します。

2 後援会活動

役員が集まり協議する場として、プロジェクトチーム、幹事会、総会があります。集合での実施が可能となったイベントや行事について、会員拡大ブースを設けての呼びかけ等を行いました。

2024年度、イベント等への参加を計画し、ブロック（幹事）ごとに参加呼びかけを行いました。特にいこいの村まつりには京都府南部からもバスツアーを組み多くの会員が参加され、交流を深めることができました。

これらの活動が会員増加につながる結果には至っていませんが、各地域、ブロックごとに拡大の声かけを行っていただいていることで徐々に会員拡大の兆しが見えてきていると感じます。

3 後援会の宣伝（広報）

8月の総会、10月の京都府聴言センター開放日、いこいの村まつり、3月の耳の日記念集会等で会員拡大を進めるために、会員入会受付を設け呼びかけを行いました。その他聴言ニュースにおいて会員入会人数（状況）を掲載し普及啓発に努めました。

4 関係団体との連携

口上林世話人会では、今年度もいこいの村職員と世話人の方々が一緒に地域の訪問活動を行い、共同の取り組みをしていただきました。

今後も後援会と他団体との共同、共催を進めていきます。

2025年度 活動方針 (2025/6/22総会決議)

会員目標 1,300人

【会員拡大・レインボープラン3・後援会活動の原点】

法人事業の前進とともに歩んできた後援会。活動を通じて一貫して理解者を増やし、地域に根差した事業の実現を図ってきました。

これからも会員お一人おひとりを大切に拡大し、学び、法人と共にあゆみを進めます。

会員拡大

1 会員拡大について

- (1) 各団体・ブロック毎に目標を定め、合計で会員拡大1300名
(団体1000名+職員300名)

【地域ごとの目標】※職員を除いています

地域	京都市内	北部	口丹	乙訓	山城	職員
会員数	450	350	50	50	100	300

⇒四半期(3か月)毎の会員入会状況を幹事中心にお示しし会員の入会更新を丁寧に進めます。

- (2) 後援会員の皆様に会員証を発行します。また会員拡大強化月間(10月～3月)に担当者と対面で加入手続きをしていただいた方に記念品をお渡しします。
- (3) 会員交流の取り組みを進めます。
- ア 法人事業を知る機会として、今後も法人主催行事を共に取り組みます。
- イ 各地域で開催される行事へのバザー出店、会員普及ブースの出展を行います。
- ウ 会員のみならずと共に学ぶ機会として福祉を巡る学習会や後援会出前講座等を開催します。

2 法人後援会活動

- (1) 後援会幹事会を最重要決議機関とし、後援会の方針決定、活動の報告を丁寧に行います。(継続)
- 法人担当者(事務局・担当幹事)と幹事会代表によるプロジェクトチーム会議を継続し、後援会の有り方、拡大方針、寄付、一般のあらゆる方への会員拡大の活動を進めます。
- (2) レインボー3の学習、プランに沿った取り組みを継続します。
- (3) 幹事、各地域・団体・事務局との連携に努め、活動を充実させます。

- ア 会員や会費納入状況について、的確な把握につとめます。
- イ 自動引き落としによる会費納入の拡大をしていきます。
- ウ 会員加入状況を丁寧に幹事や法人内担当職員にお知らせし、着実な目標達成に向けた働きかけを行います。

(4) 会員同士の絆を大切にし、緊密な連携と活動を展開します。

3 後援会活動の業務委託（京都聴覚言語障害者福祉協会への業務委託）
引き続き法人へ業務委託により、後援会業務の的確・円滑な実施に努めます。

4 関係団体との連携

- (1) 府ネットと法人との連携をいっそう強化します。
- (2) 府ネットと連携し多くの会員や寄付を募ります。
- (3) 法人広報媒体（ホームページ、聴言ニュース等）や関係団体の発行する機関誌等を通して、後援会の呼びかけを行います。